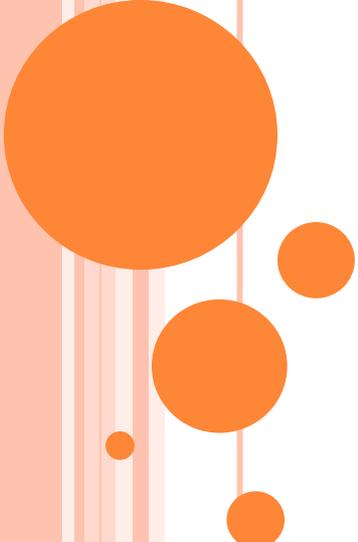


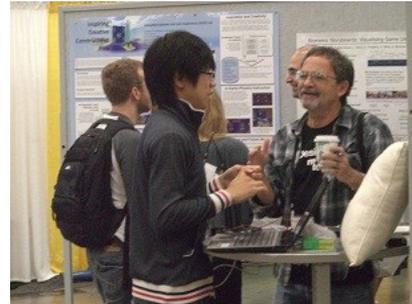
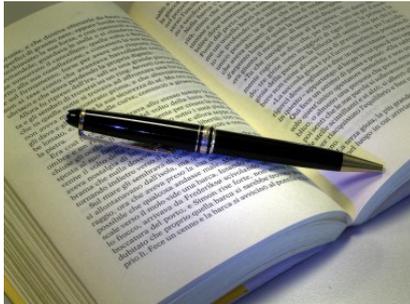
# 電通大1年生に1日1時間の 英語学習を勧める根拠



2012.7 梶本

<http://kaji-lab.jp>

# 研究室では英語が必須



- **情報収集**の8割は英語です。
  - 翻訳ソフトでは今のところ対応できないと思われます。
- **国際学会**での口頭、展示発表、論文執筆は英語です。
  - セリフは暗記できても質疑応答への対応は不可能です。
  - せっかく行った国際学会で日本人としか知り合えません。
- **研究留学**では研究に関して議論できる英語力が必要です。
  - 自分の世界を広げる留学は、英語ができないと不可能です。  
(宣伝：研究室のこれまでの実績：2010年度2名、2011年度1名、2012年度3名 (予定))



# この資料ではTOEICの点数で議論します

- TOEICは批判も多いですが、学生とレンジが合っており、数値で議論しやすいです。
  - 研究室には300点台から900点台後半まで幅広く在籍しています。なぜか公開したいくらい美しい一様分布です。
  - ここ5年ほどで学生の得点と学会発表時の様子の関係がわかったので、それに基づいた議論ができます。
- TOEIC批判の正当なものは「TOEIC満点でも海外の会議や授業で全然発言できない」です。
  - つまり批判の正しい解釈は「満点でも全然足りない」であって「ボクの良さはこんなテストでは測れない」ではありません。(国際的に点を使いやすいTOEFL等はもちろん良い選択肢)



# おことわり / DISCLAIMER



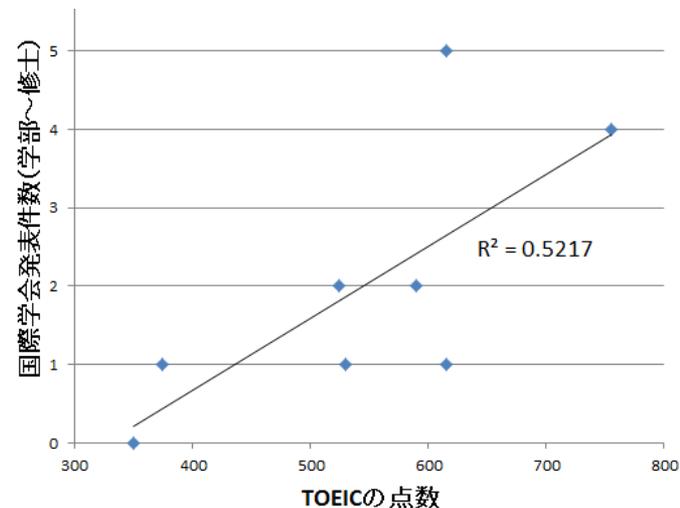
- 多くの数値が出てきます。具体的な「量」の議論をしたいからですが、大雑把な観察に基づいた主観的な値であり、統計的な正当性はありません。
- 研究室の学生が学会発表や留学で困らないようにという目的で書かれており、どれだけ一般性があるかはわかりません。



# 必要な点数



# 国際学会発表件数との相関



- グラフは研究室における、学部から修士までの3年間の国際学会発表件数とTOEICの点数との関係を表しています。
- 修了人数がまだ少ないので明確には言えませんが、**点数と国際学会の発表件数の間には弱い相関がありそうです。**
- はじめに尻込みしてしまう＆一回で懲りてしまうのが原因のようです。

# どのくらいの点が必要か (学会発表の様子から1/2)



- 学会にはデモ、ポスタ、口頭発表があります。
  - デモ展示はモノがあるので一番やさしいです。現地取材を受けるほど成功すると急に厳しくなります。
  - ポスタは本来会話なので一番厳しいはずですが、凍りつくことはないので安心です。
  - 口頭発表は質問をその場で聞き取り回答を述べる必要があり、さらに観客の目があって緊張するので一番厳しいです。



# どのくらいの点が必要か (学会発表の様子から2/2)

- これまでの学会発表では、大体次のような対応関係が観察されました（主観）。

TOEIC成績	
850	口頭発表質疑応答安心ライン(経験を積みれば)
700	口頭発表質疑応答可能ライン(問答集を用意)
600	留学ぎりぎり可能ライン(ただし周囲は気を使う。事前にSkype面接があると撃沈)
500	ポスタ、展示可能ライン(同じ質問が多いので段々応答がスムーズに)

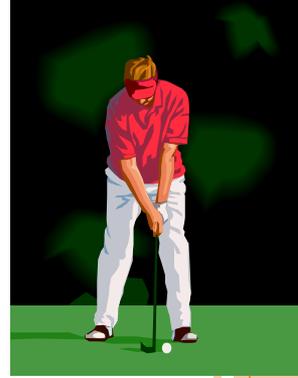
- あくまで目安で、クリアしないと発表出来ないということではありません。実際300点台で見事に口頭発表を行った人もいます。

# なぜ伸びないのか

- 問題は多くの学生が「勉強しても伸びない」という悩みを抱えることです。なぜ伸びないのでしょうか。本当に「勉強しても伸びない」のでしょうか。



# 勉強法が間違っているのか(1/2)



- これは次の点では**正しい**です。
- TOEICの点数が600点に達しない人は、中学文法に穴がある場合が多いようです（英文添削による実感）。
- この段階で「（わからないまま）ひたすら聞く」系の勉強はほとんど意味がありません。
- **この段階で**効率が良いのは「受験勉強」と思われます。
  - 非ネイティブにとって効率の良い学習方法が文法（法則）の学習ということなので、ネイティブの学び方との比較は意味がありません。
  - センター試験満点がわかりやすい第一目標です。
  - 受験勉強の最大の利点は**低コストに良質な教材が手に入る**ことです。



## 「勉強法」が間違っているのか(2/2)

- しかし次の点では**間違っ**ています。
- 多くの「点が伸び悩んでいる人」は、勉強法については調べています。つまりすでにある程度最適化されていると考えられ、**勉強法に言及すればするほどかえって苦手意識のみが助長**されます。
- しかし**勉強時間**に関する概算をしていません。
- その結果「自分なりに」頑張った結果伸びない状況が続いていると考えられます。



# 時間に関する概算

- 多くの場合（特に研究室の学生は忙しいので）一日15分でも勉強すれば充実感が出ます。筋トレと同じ感覚。本当はどのくらいの時間が必要なのでしょうか。



# 他言語学習に要する時間



☞ 以下の記事では、英語を仕事に使えるレベルになるまでに必要な学習時間を試算しています。

[http://www.nullarbor.co.jp/guidance/toEIC\\_g02.html](http://www.nullarbor.co.jp/guidance/toEIC_g02.html)

- これによると、ネイティブ並みを求めると人生レベルの時間がかかりますが、**学会や留学で使えるレベルだと「2000～3000時間」が目安**のようです。
- これは「集中的なトレーニング」の際の数値なので、すでに非常に効率の良い学習をした場合です。



# 足りていない時間数



- これに対して公立中高＋大学の英語の授業時間は多く見積もっても1000時間です。
- 例えば受験勉強で、高校三年生の一年は毎日一時間勉強したとしても、プラス300時間にすぎません。
- つまり、ざっと**約1000時間足りない**わけです。





## (蛇足) 英語が好きな／得意な人

- 中学～高校の間、英語が好き／得意だった人や、英語教育に熱心な学校に通っていた人はどうしていたのでしょうか。
- これは資料はなく想像になりますが、恐らく高々一日30分程度の学習時間差でしょう。これが6年蓄積すると、やはりちょうど「1000時間」です。
- 得意な人と苦手な人の差というのは、結局時間でほぼ説明がつくと思われま



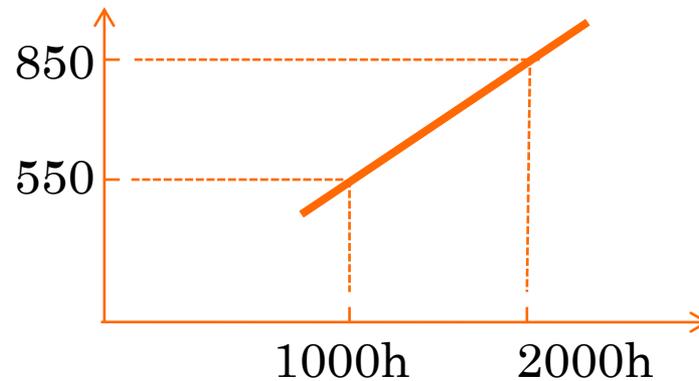
# TOEICとのマッピング



- ここで大胆すぎるマッピングをしてみます。
- 四年制大学の学生のTOEIC平均は約**550点**だそうです。これが先ほどの「標準的な学習をした人」の点と見てよいでしょう。  
<http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/DAA2007.pdf>  
(ただし「TOEICを受験するような意識の高い学生」の平均かもしれないのですが)
- 先に述べたように、学会発表等で不自由しなくなるのが**850点**くらいとすると、これを先ほどの、「2000～3000時間学習した人」の点数と見ても大きな間違いではないでしょう。  
(TOEIC満点でも実務にならないという意見は多く、低めの見積もりかもしれません)
- つまり大まかに、この**300点の差が、1000時間の差に対応する、**とみなすことができます。



# TOEICとのマッピング



- ここから（これも乱暴に）線形の仮定をすると次のことがわかります。

1点上げるために必要な学習時間の目安

$$\underline{1000 / (850 - 550) \div 3\text{時間}}$$



# 典型的な例



- 研究室でよく耳にする会話は次のようなものです。
- 「毎日30分も頑張ったのに、半年で30点しか上がらなかった。結局僕は英語向いてないんです」
- でもこれは、計算通りの結果です。  
$$0.5h \times 180日 / 3h = 30$$
- つまり見かけ上の「伸び悩み」は伸び悩みではなかったということです。



# 必要な学習時間の式



- (850点－今の点数) ×3すると、必要な学習時間の総量が分かります。
- 卒業までの（あるいは別の目標日までの）日数で割ると、一日あたりに確保すべき学習時間が出ます。
- 例えば550点の人が1年で850点になりたいければ、ざっと、一日3時間必要になります。



# もし研究室に配属された後なら



- 計算結果は予想より厳しいのではないのでしょうか。もちろん怪しい仮定はたくさんあります。でも数倍違うほど間違った試算でも無さそうです。
- もし研究室配属後なら、修士までの3年は約1000日。一日1時間で合計1000時間。これで550点の人が850点、英語ができる分類で就職できます。
- これですら「3年間ほぼ毎日一日一時間」という厳しいもの。でもかろうじて現実的です。「英語論文を読む時間」も、「英語原稿を書く時間」も含まれますから、研究行為をそのつもりで取り組むことで一石二鳥になります。

# もし学部一年生なら



- もし学部1年生なら、**確実に間に合います**。今から3年生までの3年間を一日一時間あてれば1000時間は確保されるからです。
- つまり 平均的な大学生は全員在学中にTOEIC800点台になれます。これが本スライドの表題の意図です。
- でも多くの人が時給1000円のバイトを1000時間やって100万円稼いで終わりなのです。なんとということ。



# 一番言いたいこと

- 一番言いたいことは、こうした試算から、「伸び悩み」が伸び悩みでないことを理解して欲しいということです。
- そうでないと、「頑張ったのに伸びない」⇒「もともと向いてない」という結論になってしまいます。
- **大抵の場合「学習したとおりに伸びている」だけです。**
- (特にTOEICのような試験は最初の数回は慣れで点が上がるので、その後の正しい実力の反映を伸び悩みとして感じてしまうのかもしれませんが)



# 要点まとめ

- 「聞き流すだけ」系の暗黒面に落ちませんように。
- 「伸ばしたい点数×3」が必要な学習時間の粗見積。
- 学部1年生で今500点台なら、「一日一時間、3年間」。
- 厳しい数値と思いきや多くの人がある程度はバイト。
- 基礎に問題がある場合は受験勉強の枠組みは利用できそう。また飽きないための何らかの趣味化の工夫も必要。
- 研究室では、研究と独立して学習時間を確保するのは不可能。論文読み、論文書きを含めて達成。一石二鳥。